

業種別景況予測

2024年4月～6月

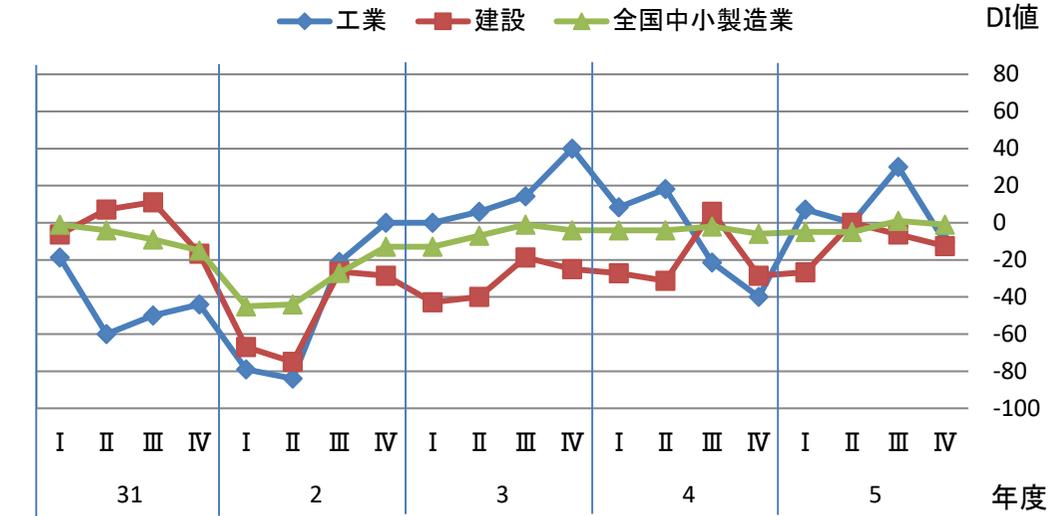
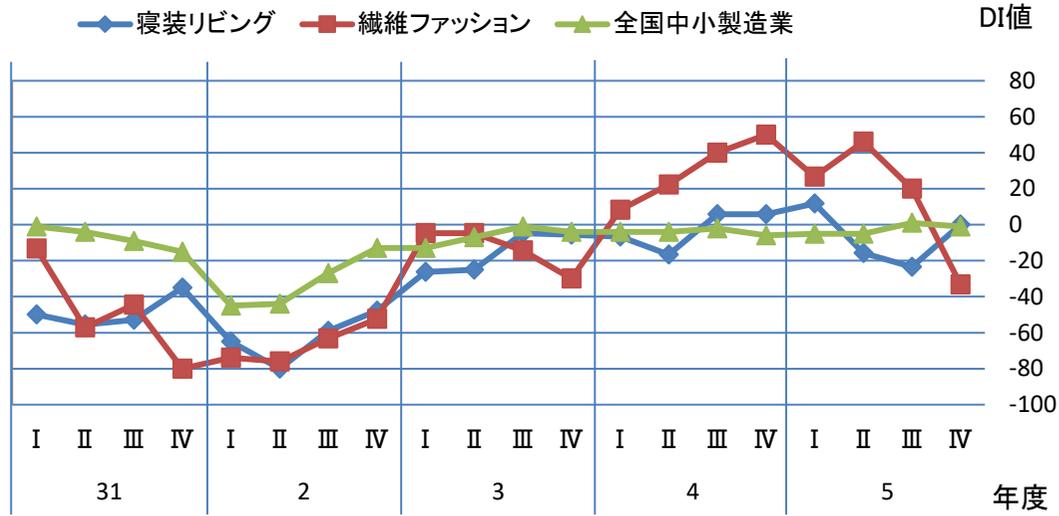
						
	特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部会	1～3月 (実績)	4～6月 (見通し)	概況			
寝装 リビング			「生産状況は下降気味。(毛布製造業)」「売上が増加するも、原材料仕入価格の増加により、収益状況は悪化。(寝具製造業)」など、先行き不透明とのコメントが寄せられた。			
繊維 ファッション			「暖冬や円安の影響で、景気はますます悪化傾向。(商品検品業)」「受注が無く大変厳しい。(繊維加工業)」「数量が大幅に減少、なかなか元に戻らない。(繊維資材販売業)」「全体的に良くない。最終価格がなかなか上がらず、工賃に反映しない。(染色整理業)」とのコメントが寄せられた。			
工業			「売上必須だが、顧客との関係性や競合他社との競争価格もあり、値上げし辛い状況が続いている。(工業用薬剤等製造業)」「製品を配達する運転手の不足が目立つ。(工業用品製造業)」「自動車関連は回復しつつあるが、建機・農機等は足踏み状態が続いている。また、ここにきて、原材料価格の値上げがあり、収益面で厳しい状況である。(工業用部品製造業)」などのコメントが寄せられた。			
建設			「作業員不足補充のため、海外ワーカーの育成を奨励している。(建築工事業)」「円安が進み収益が悪化。(木材製品販売業)」「材料価格の上昇が続いていることと相変わらず品薄状況が続き大変厳しい。(電気工事業)」「工事単価不変ながら、原材料の仕入れ価格の上昇で資金繰りが悪化。(塗装業)」など、人手不足・収益減少のコメントが寄せられた。			
運輸倉庫			「2024年問題をきっかけに、運賃交渉の機会が増え、運賃値上げへの理解をしてくれる荷主が増えてきたように感じる。(運送業)」「売上は増加傾向にあるが、燃料価格の上昇にストップがかからず、激変緩和措置の継続がいつまでであるのかなど不安要素も多い。(海上運送業)」「2024年問題が始まり、今後の先行きが全く見通せない状況。(運送業)」など、燃料価格の上昇・2024年問題に対するコメントが多く寄せられた。			
金融理財			「デジタル化により、業務が便利になっているが、パソコンが固まってしまうと仕事がストップしてしまうなどリスクも多い。(土業)」「動きが鈍く、先行き是不透明。(不動産賃貸業)」などのコメントが寄せられた。			
一般商業			「ベーカリーショップが増えているが出入りが激しい。特徴のある店が残っているように思う。(パン製造小売業)」「仕入れ価格の上昇が激しく、資金繰りが厳しくなってきた。(食品小売業)」「円安の影響もあり売上減少。(雑貨小売業)」「コロナ禍以降、ネットでの購入者が増加し、店頭販売が厳しい。(美容品等小売業)」など、消費落ち込みに関するコメントが多く寄せられた。			
サービス商業			「物価高の影響が深刻。先行き不安。(飲食業)」「貸切バス料金が1.4～1.5倍になった。(旅行業)」「今年に入り、人の流れが活発になってきたように思う。コロナの影もなく好調を維持している(娯楽場運営業)」「原価の高騰で収益激減。(飲食業)」「材料費の値上げがまだまだ続いている。(飲食業)」「コロナ禍前の客足になかなか戻らない。(飲食業)」など、売上は増加するものの、収益減少とのコメントが見受けられた。			

(調査概要) ●調査実施 令和6年4月 ●調査対象企業 288社 ●回答数 154社

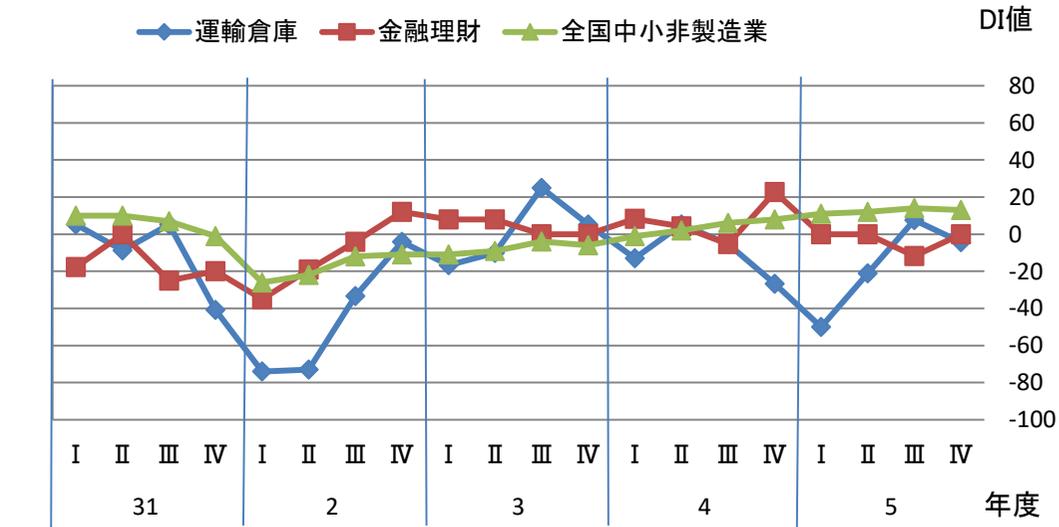
管内企業をとりまく諸条件を考慮し、各企業が「景況」をどのように予測しているのかについて、継続的に調査し発表しています。調査は、四半期毎にとらえており、通常のシーズンの動向が理解できるようにまとめました。この「景況予測」が「結果」と比べてどうであったか、また、各々の業界対策・企業経営の一つとして、参考にしていただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 業務課 TEL 0725-23-1111

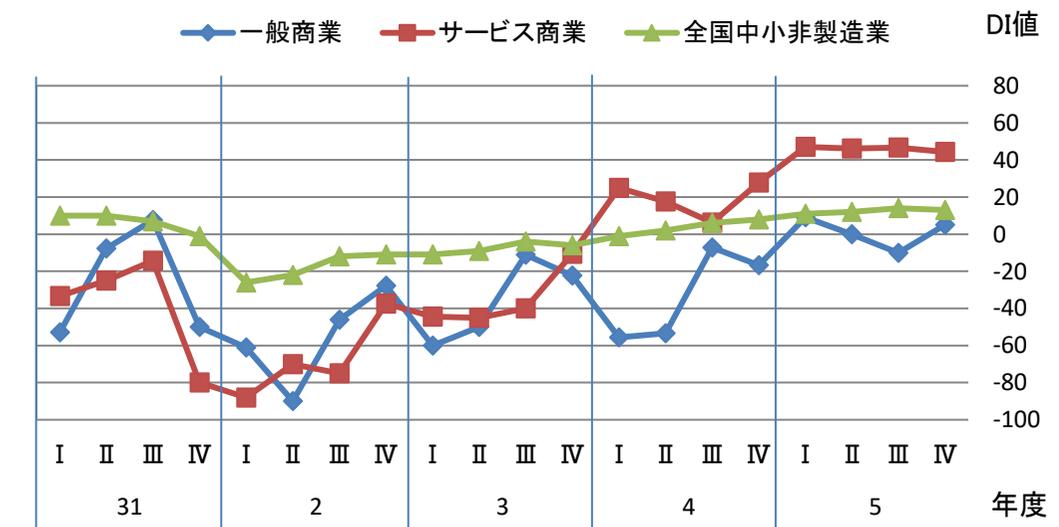
前年同期と比較 泉大津の全産業のDI値は前年同期に比べ、横ばい。業種別にみると、サービス業については大幅に改善され、寝装リビング業・金融理財業・一般商業は横ばい、工業・建設業・運輸業はやや悪化、繊維ファッション業は悪化となった。



前年同期と比較 寝装リビング業は売上高は横ばい、繊維ファッション業については売上高が大幅に減少。何れも、仕入価格・加工単価の上昇により、収益が悪化となった。



前年同期と比較 工業・建設業何れも、売上高は横ばいだが、仕入価格・加工単価の上昇により、収益がやや悪化となった。



前年同期と比較 運輸倉庫業・金融理財業の売上高は何れも横ばい状況。運輸倉庫業については、燃料価格上昇により収益がやや悪化となった。

前年同期と比較 一般商業は横ばい、サービス商業は大幅に改善され、上昇傾向を示し、維持している。

※DI値: 売上状況の回答 (増加-減少=DI値) ※H30.7 ゲリラ豪雨 ※H30.9 台風21号 ※R2.3 新型コロナウイルス感染症拡大
 I = 第一四半期 (4~6月) II = 第二四半期 (7~9月) III = 第三四半期 (10~12月) IV = 第四四半期 (翌年1~3月)

⑨ 全国中小製造業・非製造業は前期と比較しています。